

自然人類学Ⅰ(2)

第6回社会

霊長類の多くは社会的な生活を送ります。霊長類の社会構造・社会関係・インタラクションに関する知見を概観しつつ、ヒトの社会がどのように成立したかについて考えます。

第7回生涯

発達・繁殖・出産・老化など、個体の一生の間に生じるイベントなどを学び、霊長類の中でのヒトの生涯の特徴について考えます。

第8回歴史

人間の社会に歴史があるのは当然ですが、ヒト以外の霊長類の社会はどうでしょうか。ここでは集団の盛衰・デモグラフィーの変化など、個体を超えるレベルでの時間変化を検討し歴史性について考えます。

第9回悪

殺人や戦争など、人間社会では「悪」が尽きることはありません。霊長類社会での殺し・暴力・ハラスメントについて検討し、人間社会で「悪」と考えられる現象の起源について考えます。

第10回平等性

全ての人間は平等であると言われます。ここでは、霊長類の順位関係・順位序列や食物分配、公平さ、遊びなどに関する知見を概観しつつ、平等性について考えます。

第11回知性

知性はヒトを特徴付ける特徴であり、また霊長類を特徴付ける特徴の一つだと考えられています。道具使用・社会的知性・欺瞞などの例から、霊長類における知性の進化について考えます。

第12回文化

人間の行動はしばしば生物学的にではなく文化的に決定されると言われます。ここでは、霊長類における文化的な行動の違いや社会的学習などについて学び、文化の起源について考えます。

第13回言語

分節化された音声言語を持つことはヒト独特の特徴です。霊長類の音声コミュニケーションや身振りの研究、さまざまな言語進化仮説等について学び、ヒトの言語の起源について考えます。

第14回霊長類の危機と保全

多くの霊長類の絶滅が危惧されており、霊長類を知ることと霊長類を保全することはもはや完全に切り離すことができません。絶滅を防ぐために身近なところで私たちができることなどについて考えます。

試験

第15回フィードバック

【履修要件】

自然人類学Ⅱもぜひ受講してください。

高校での「生物」の履修は不要です。授業中必要になる知識については、授業内で適宜補足します。

自然人類学Ⅰ(3)へ続く↓↓↓

自然人類学Ⅰ(3)

[成績評価の方法・観点]

定期試験（筆記）で評価します。この評価は絶対評価（素点）で行います。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

中村美知夫 『「サル学」の系譜』（中公叢書）ISBN:978-4120047565（2015年，1,900 円+税）
西田利貞 『人間性はどこから来たか』（京都大学学術出版会）ISBN:4-87698-079-9（1999年（2007年），2,800円（学術選書版1,800円））
山極寿一 『人類進化論 - 霊長類学からの展開』（裳華房）ISBN:ISBN978-4-7853-5217-2（2008年，1,900円）
西田利貞・上原重男編 『霊長類学を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4-7907-0743-1（1999年，2,400円）
中村美知夫 『チンパンジー』（中公新書）（2009年、724円（現在電子書籍で入手可））
上記以外は、必要に応じて授業中に紹介します。

（関連URL）

<http://jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp/nakamura/>

[授業外学修（予習・復習）等]

自分なりにノートを整理するなどして、授業中に分からなかった点をクリアにしておくといいでしよう。

[その他（オフィスアワー等）]

プリント等の配布はしません。自分なりに要点をまとめながらメモをとる訓練をしましょう。写真や動画などの映像資料も極力使用して、フィールド観察から得られた結果であることを体感してもらえようにします。